

令和4年度

品川区一般廃棄物排出実態調査等業務委託

業務報告書

(概要版)

令和4年9月

品川区

1 調査概要

区では家庭および事業所から排出される燃やすごみと陶器・ガラス・金属ごみについて、組成割合・分析調査、排出原単位調査、区民アンケート等、排出実態を調査することにより、一般廃棄物処理基本計画(第四次)策定や事業展開および指導業務などの基礎資料とするため、次の調査を行った。

- 家庭ごみ(区民)アンケート調査
- 事業所ごみアンケート調査
- 家庭ごみ排出原単位調査
- ごみ組成分析調査
スプレー缶等、小型家電、排出容器などについては詳細調査
- 事業系有料ごみ処理券貼付状況析調査

2 家庭ごみ(区民)アンケート調査

(1) 調査目的

清掃リサイクル事業に対する区民の意識や今後の施策に対する意向を明らかにすることとあわせ、家庭から発生する不用物の量と流れを把握することを目的とした。

(2) 調査対象

区が無作為に選定した2,000世帯を調査対象とした。

(3) 調査方法

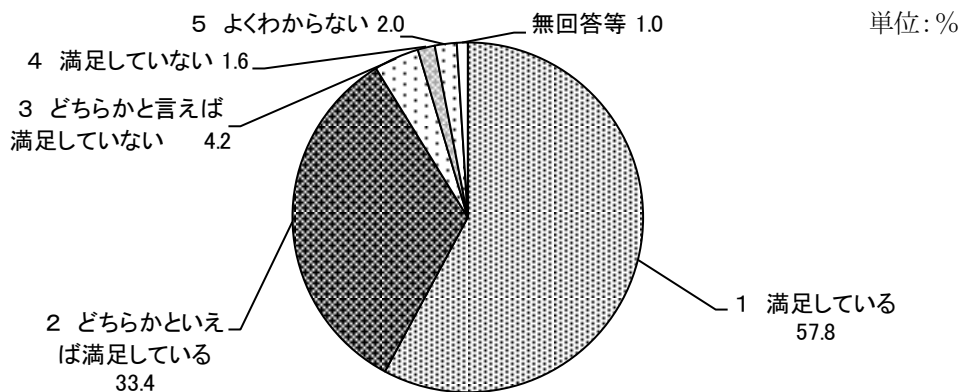
調査票の送付および回収は郵送で行った。自由記入欄以外の設問についてはコンピューターによる集計分析を行った。

(4) 回収状況

調査票を発送した2000票のうち、695票を回収した。宛先不明や転出等で返送された11票を除く1989票に対し、有効回収率は34.9%である。

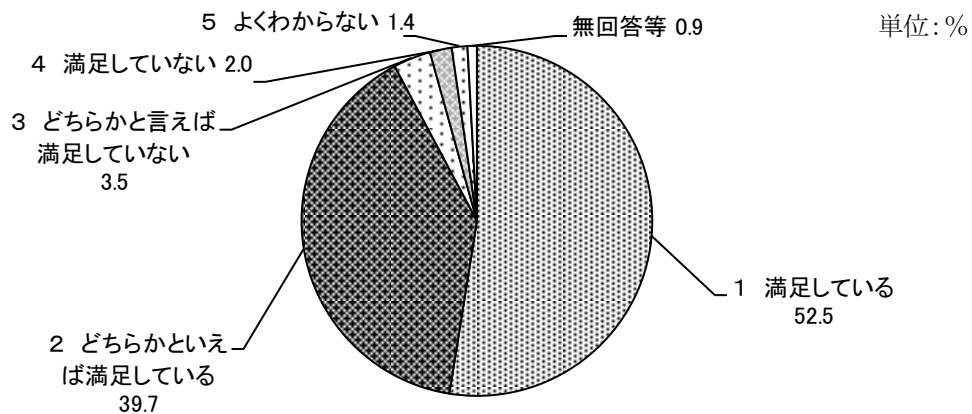
● ごみの収集回数の満足度

ごみの収集回数の満足度は、「満足している」が57.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば満足している」が33.4%、「どちらかといえば満足していない」が4.2%、「よくわからない」が2.0%、「満足していない」が1.6%である。



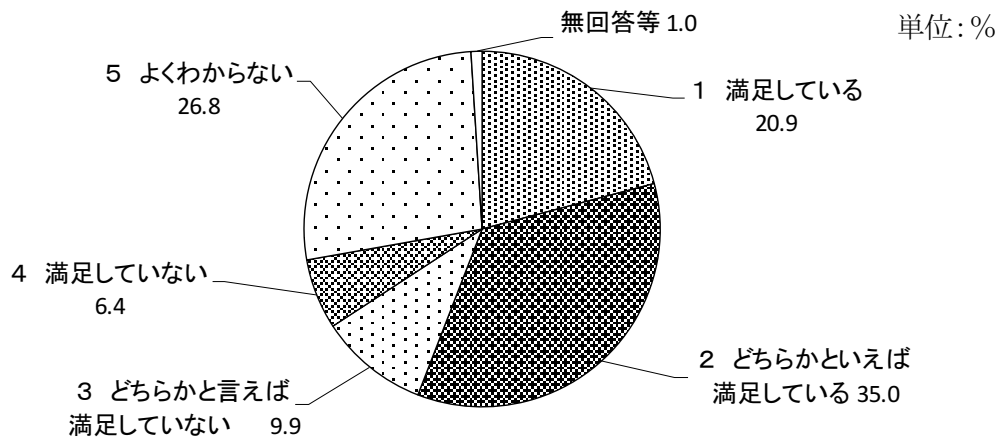
● ごみの分別区分の満足度

ごみの分別区分の満足度は、「満足している」が52.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」が39.7%、「どちらかといえば満足していない」が3.5%、「満足していない」が2.0%、「よくわからない」が1.4%である。



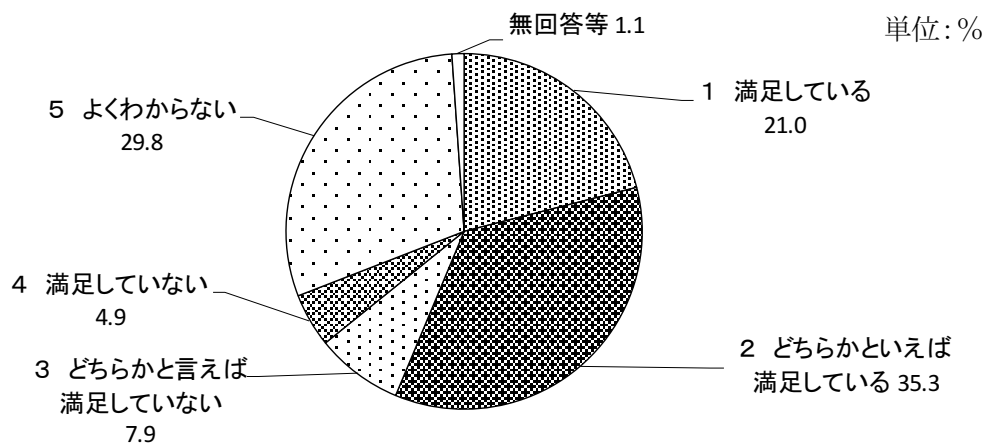
● 情報公開・提供の満足度

ごみの情報公開・提供の満足度は、「どちらかといえば満足している」が 35.0%で最も高く、次いで「よくわからない」が 26.8%、「満足している」が 20.9%、「どちらかといえば満足していない」が 9.9%、「満足していない」が 6.4%である。



● 3Rの取り組みの満足度

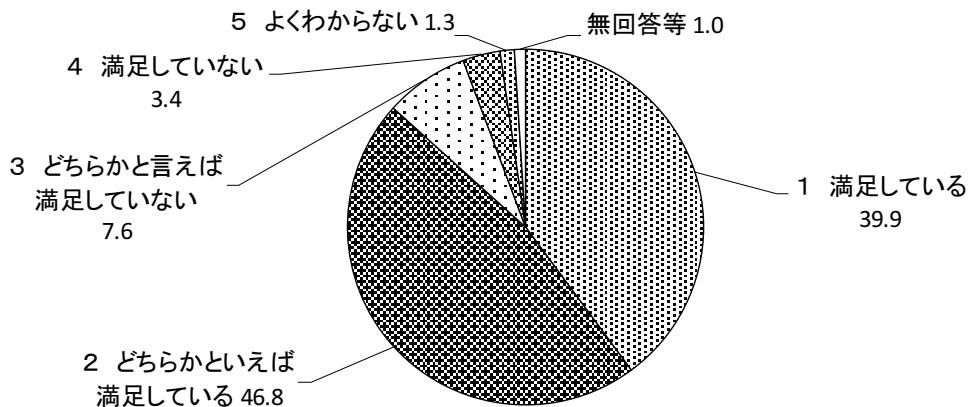
ごみの3Rの取り組みの満足度は、「どちらかといえば満足している」が 35.3%で最も高く、次いで「よくわからない」が 29.8%、「満足している」が 21.0%、「どちらかといえば満足していない」が 7.9%、「満足していない」が 4.9%である。



● 街の清潔さの満足度

街の清潔さの満足度は、「どちらかといえば満足している」が46.8%で最も高く、次いで「満足している」が39.9%、「どちらかといえば満足していない」が7.6%、「満足していない」が3.4%、「よくわからない」が1.3%である。

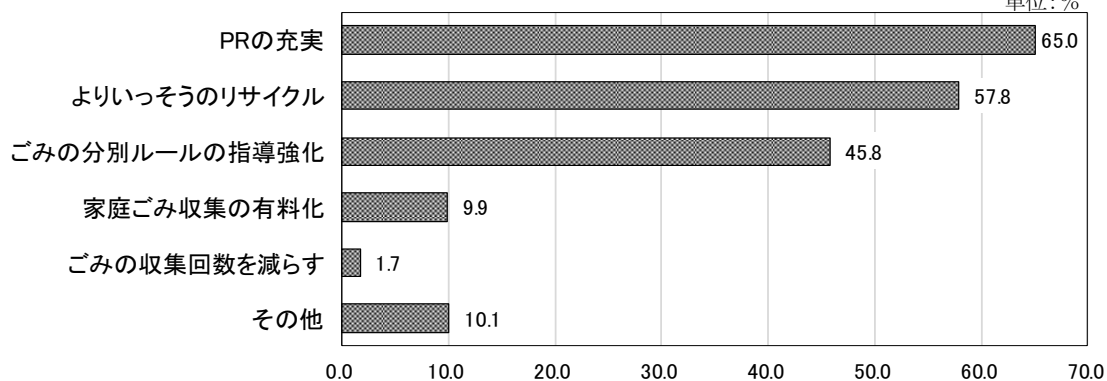
単位：%



● 清掃・リサイクル事業で必要なこと

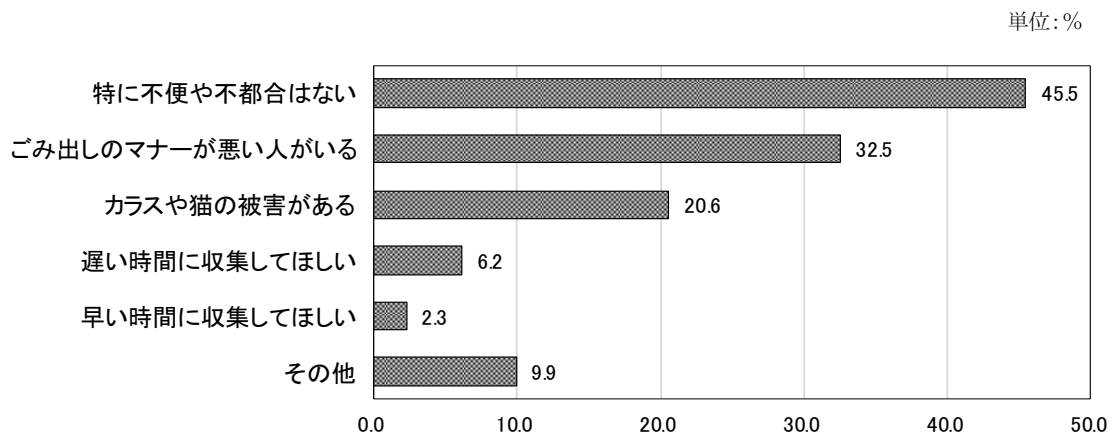
清掃・リサイクル事業で必要なことは、「PRの充実」が65.0%で最も高く、次いで「よりいっそうのリサイクル」が57.8%、「ごみの分別ルールの指導強化」が45.8%、「家庭ごみ収集の有料化」が9.9%、「ごみの収集回数を減らす」が1.7%である。

単位：%



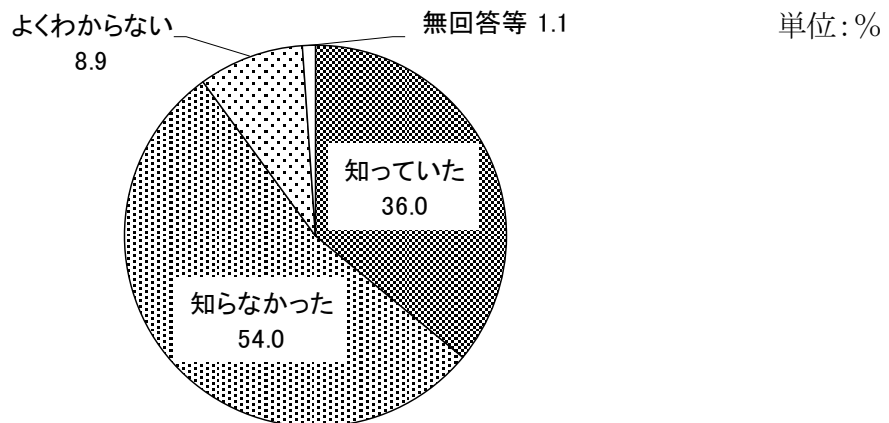
● ごみ収集で困っていること

ごみ収集で困っていることは、「特に不便や不都合がない」が45.5%で最も高く、次いで「ごみ出しのマナーが悪い人がある」が32.5%、「カラスや猫の被害がある」が20.6%、「遅い時間に収集してほしい」が6.2%、「早い時間に収集してほしい」が2.3%である。



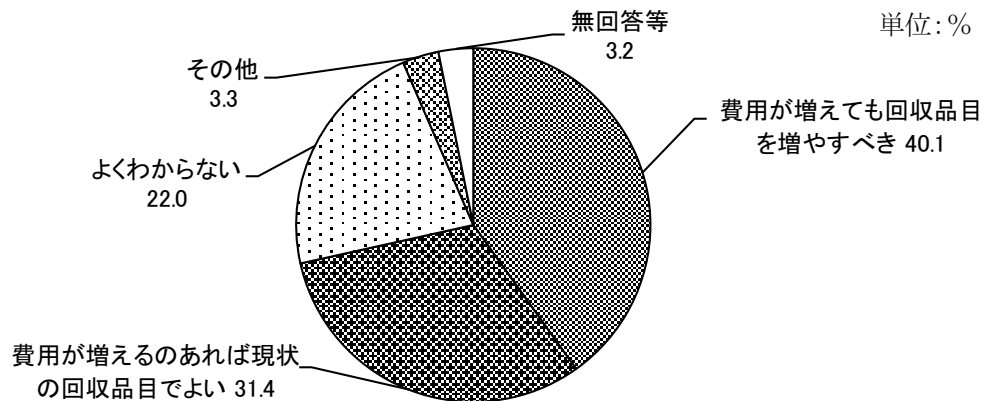
● 資源回収品目を増やすことによる費用増加の認知度

費用増加の認知度は、「知らなかった」が54.0%で最も高く、次いで「知っていた」が36.0%、「よくわからない」が8.9%である。



● 費用が増えることへの考え方

資源回収品目を増やすことによる費用が増加することについて、「費用が増えても回収品目を増やすべき」が40.1%でやや高く、次いで「費用が増えるのであれば現状の回収品目でよい」が31.4%、「よくわからない・どちらともいえない」が22.0%である。



3 事業所ごみアンケート調査

(1) 調査目的

ごみ処理・リサイクルに対する事業所の行動や意向、事業系不用物がどのような方法で資源化されているかを把握することを目的とした。

(2) 調査対象

区内の各業種から2,014事業所を調査対象とした。

(3) 調査方法

調査票の送付および回収は郵送で行った。自由記入欄以外の設問についてはコンピューターによる集計分析を行った。

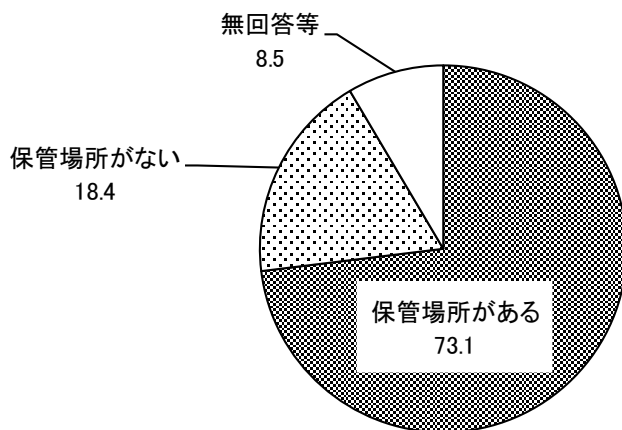
(4) 回収状況

調査票を発送した2014票のうち、553票を回収した。宛先不明や転出等で返送された103票を除く1911票に対し、有効回収率は28.9%である。

● 保管場所の有無

資源やごみの保管場所について、73.1%が「保管場所がある」と回答しているが、18.4%は「保管場所がない」と回答している。

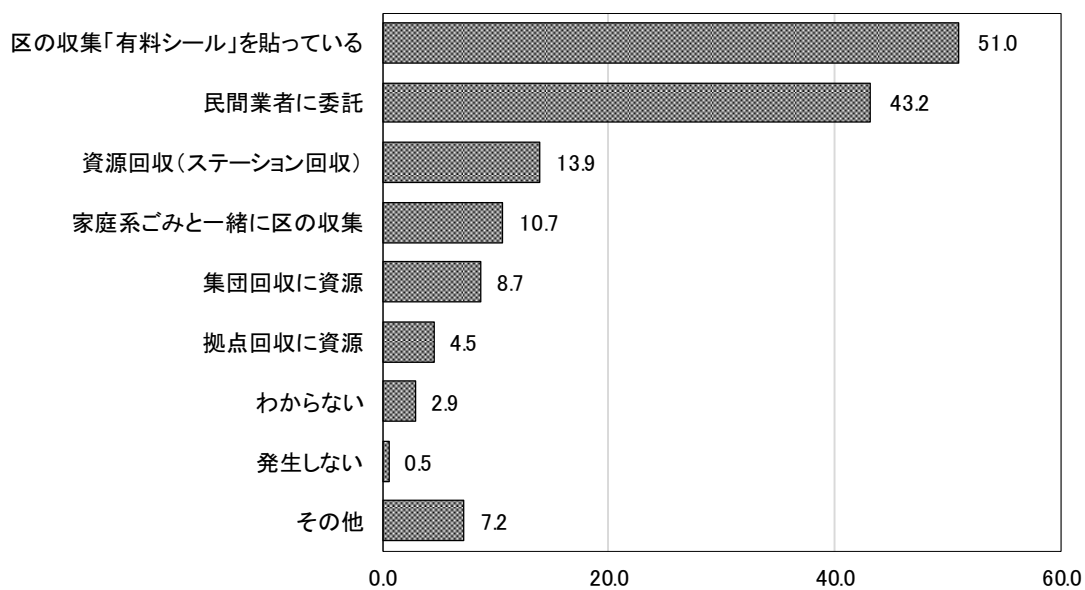
単位：%



● 資源回収、ごみ処理の方法

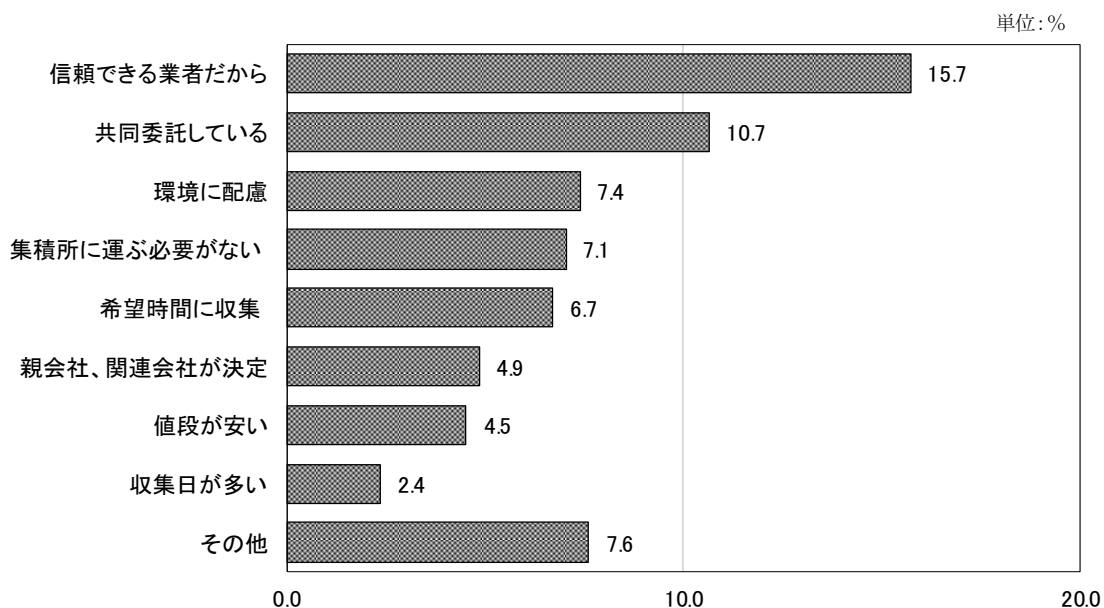
5割近くの事業所が区収集に「有料シール」を貼って出している。4割以上の事業者は「民間業者の回収、ごみの処理を委託している」と回答している。

単位：%



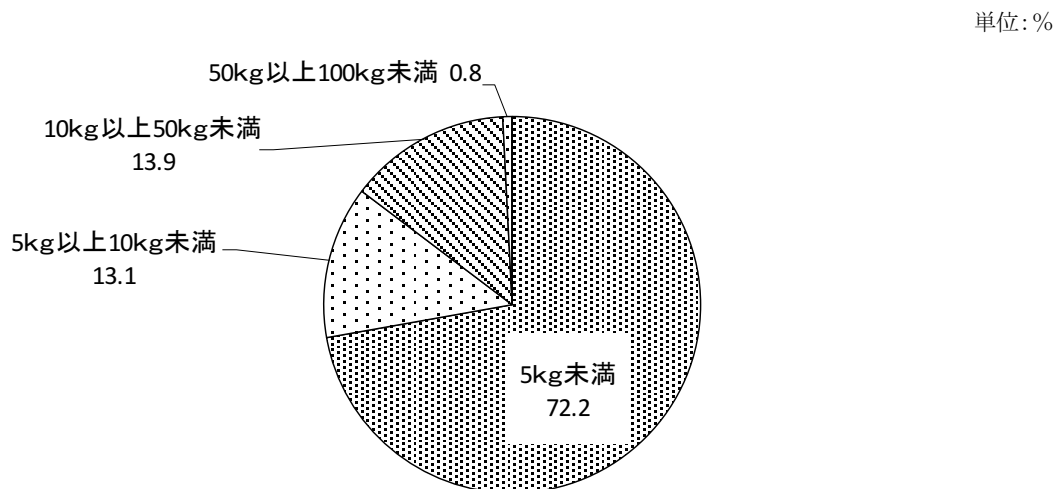
● 現在委託している民間処理業者を選んだ理由

現在委託している民間処理業者を選んだ理由として「信頼できる業者だから」が15.7%と最も高い、次いで「共同委託している」が10.7%、「環境に配慮してくれるから」が7.4%である。



● 品川区の収集に排出している一週間あたりの資源量

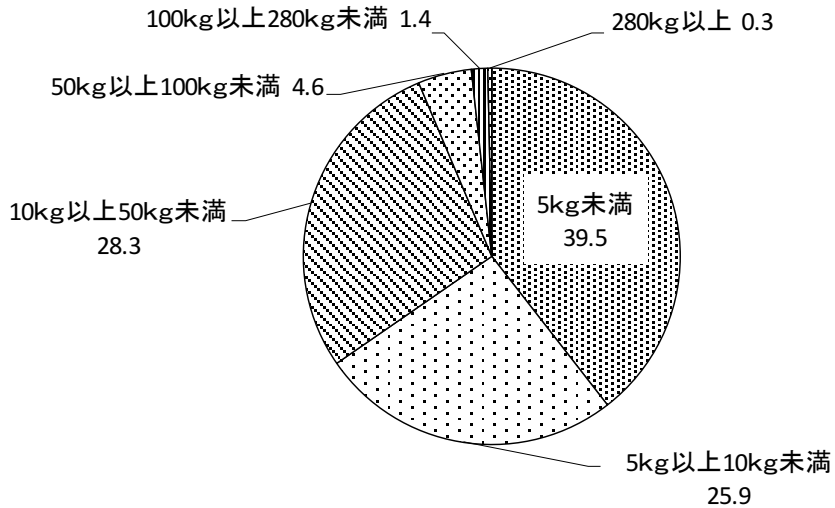
品川区の収集に排出している一週間あたりの資源量は、「5kg未満」が72.2%と最も多く、「10kg以上50kg未満」が13.9%、「5kg以上10kg未満」が13.1%である。



● 品川区の収集に排出している一週間あたりのごみの量

品川区の収集に排出している一週間あたりのごみの量は、「5kg未満」が39.5%と最も多く、「5kg以上10kg未満」が25.9%、「10kg以上50kg未満」が28.3%である。

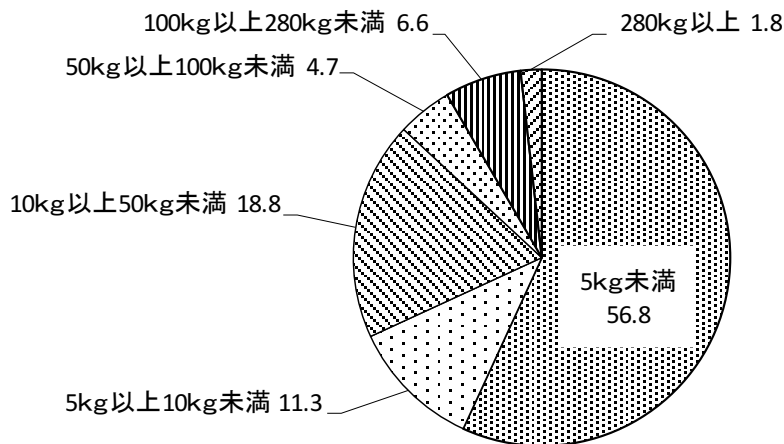
単位: %



● 委託処理などに排出している一週間あたりの資源量

委託処理などに排出している一週間あたりの資源量は、「5kg未満」が56.8%、「10kg以上50kg未満」が18.8%、「5kg以上10kg未満」が11.3%である。

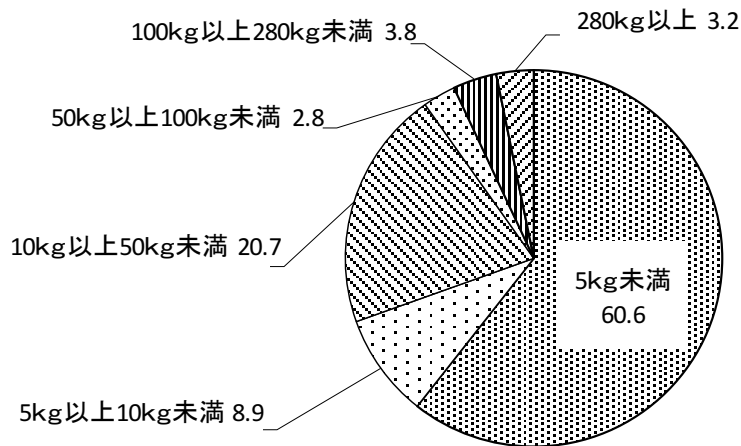
単位: %



● 委託処理などに排出している一週間あたりのごみの量

委託処理などに排出している一週間あたりのごみの量は、「5kg未満」が60.6%、「10kg以上50kg未満」が20.7%、「5kg以上10kg未満」が8.9%である。

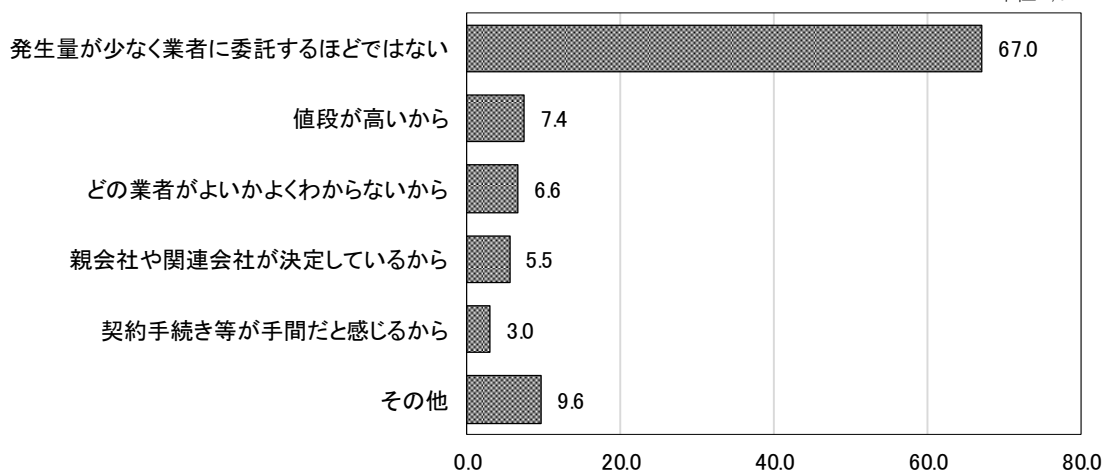
単位：%



● 民間処理業者に委託していない理由

民間処理業者に委託していない理由としては「発生量が少なく業者に委託するほどではないから」が67.0%と最も多い。「その他」は“ビル管理会社に任せている”などと回答している。

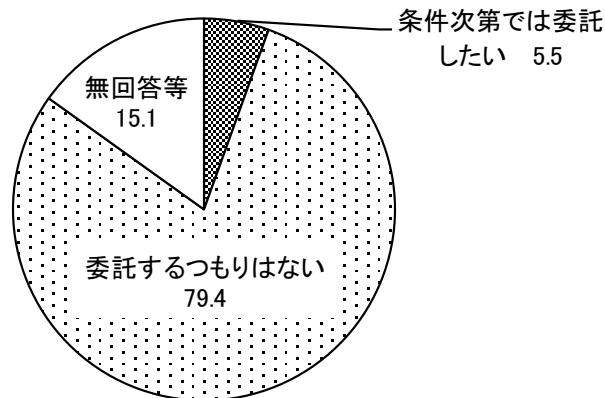
単位：%



● 許可業者委託への移行の考え

現在、民間処理業者に委託していない事業所へ民間の許可業者への委託に移行する考えの有無について質問すると「委託するつもりはない」が約8割である。

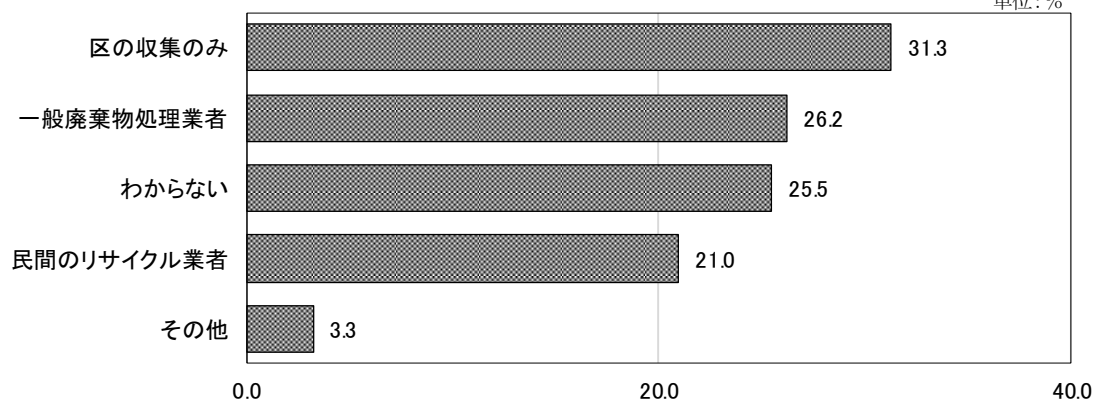
単位：%



● 区収集以外で利用している処理方法

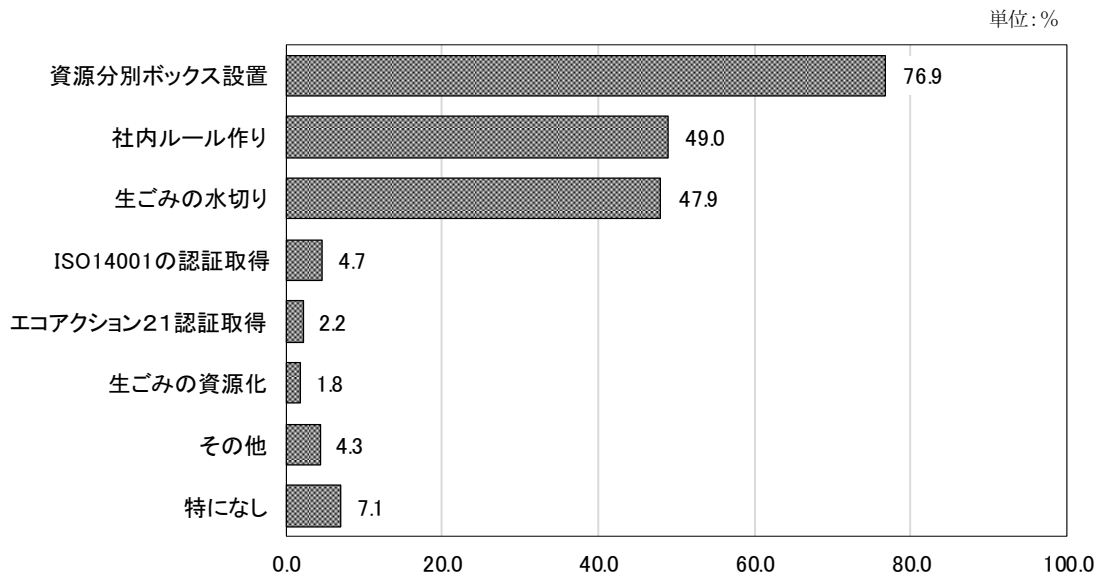
区収集以外で利用している処理方法を質問は、「区の収集のみ」が31.3%、「一般廃棄物処理業者」が26.2%、「民間のリサイクル業者」が21.0%である。

単位：%



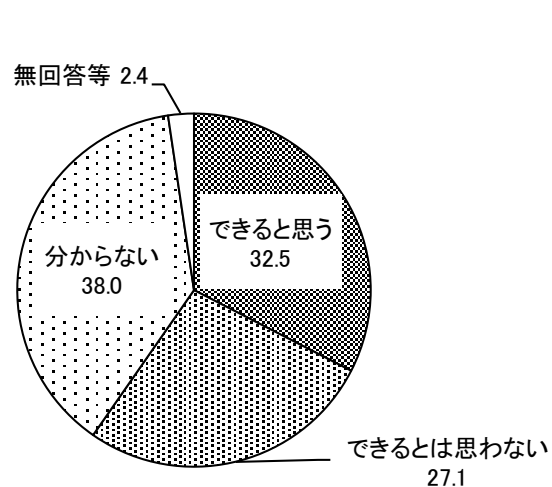
● リサイクルやごみ減量の取り組みについて実施している取り組み

事業所で現在実施しているリサイクルの取り組みや、ごみの減量の施策は、8割弱の事業所が「資源の分別ボックスを設置している」。「社内ルール作り」は49.0%が実施。「生ごみの水切り」は47.9%が実施している。



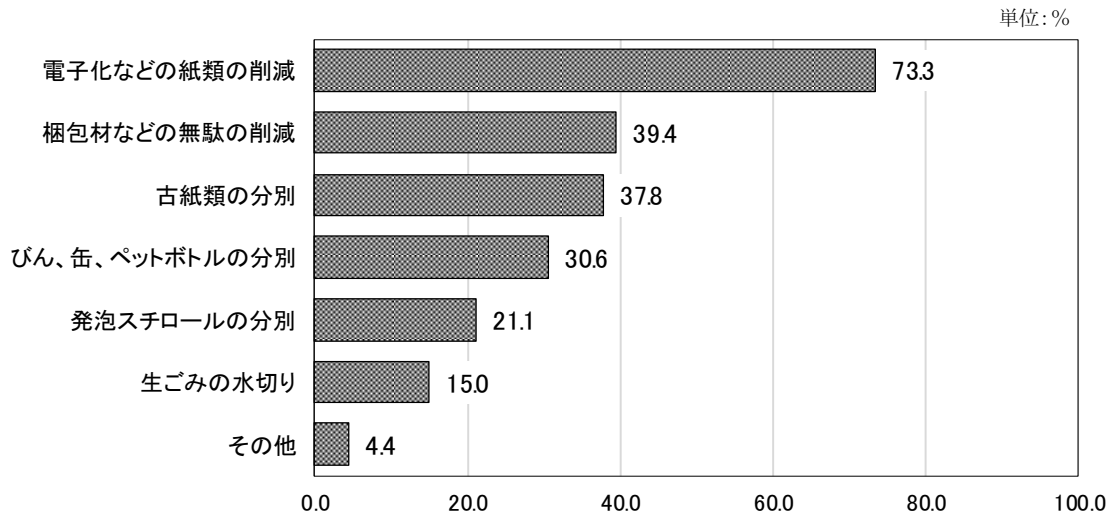
● さらなるリサイクルやごみ減量の可能性

さらなるリサイクルやごみ減量の可能性については、約3割の事業所が今よりもっとリサイクルやごみ減量が「できると思う」と回答している。



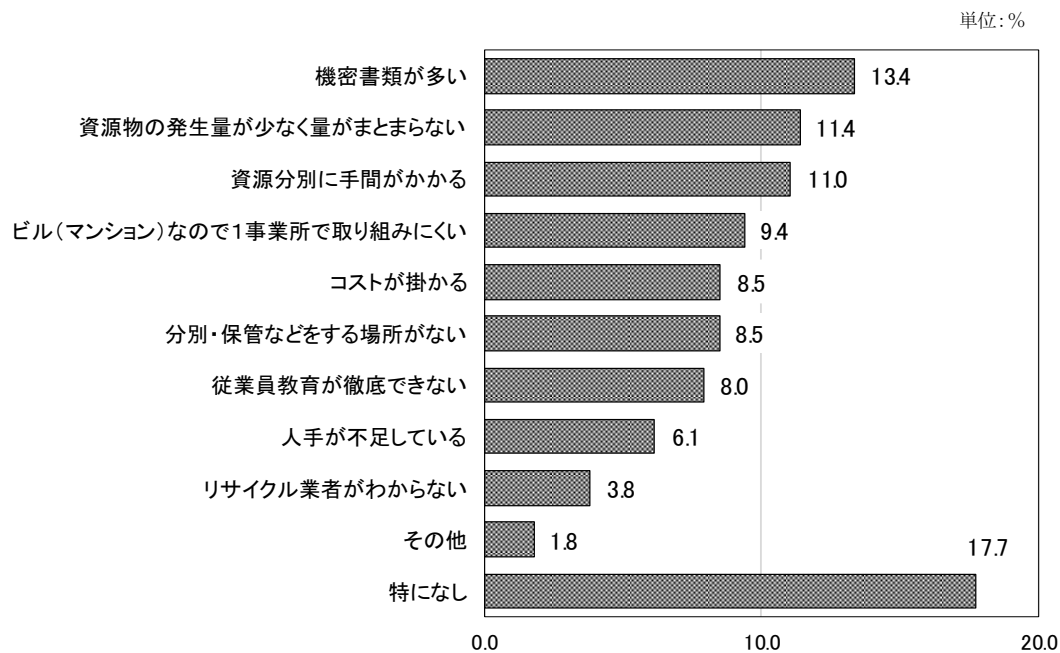
● さらなるリサイクルやごみ減量の取り組みでできると思われること

「さらなるごみ減量ができる」と回答した事業所に対し、取り組むことができるとした内容は「電子化などの紙類の削減」が73.3%と最も多く、次いで「梱包材などの無駄の削減」が39.4%、「古紙類の分別」が37.8%である。



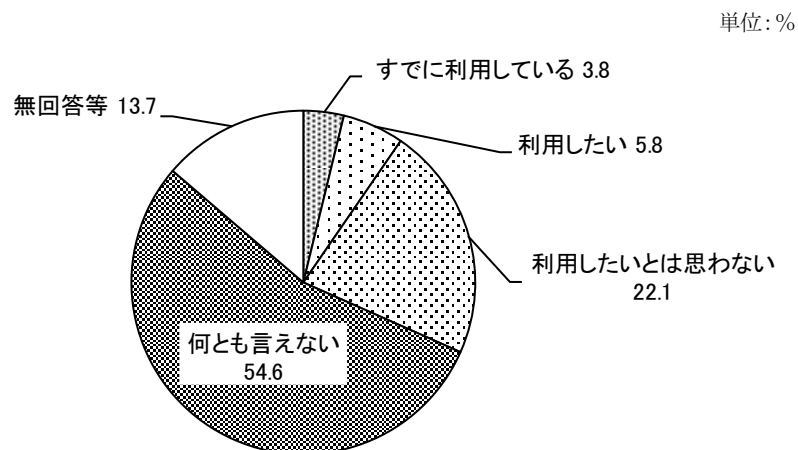
● リサイクルやごみ減量を進めるうえでの課題

リサイクルやごみ減量を進めるうえでの課題は、17.7%の事業所が「特になし」。「機密書類が多い」が13.4%、「発生量が少なく量がまとまらない」が11.4%である。



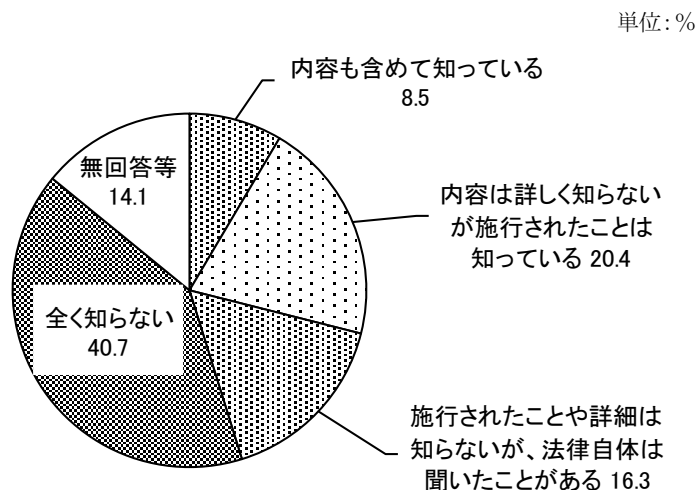
● 品川区リサイクル事業協同組合カムズの利用意向

品川区リサイクル事業協同組合カムズについて質問した結果、「何とも言えない」が54.6%と半分以上を占める。「利用したいと思わない」が22.1%、「利用したい」が5.8%、「すでに利用している」が3.8%となっている。



● プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の認知

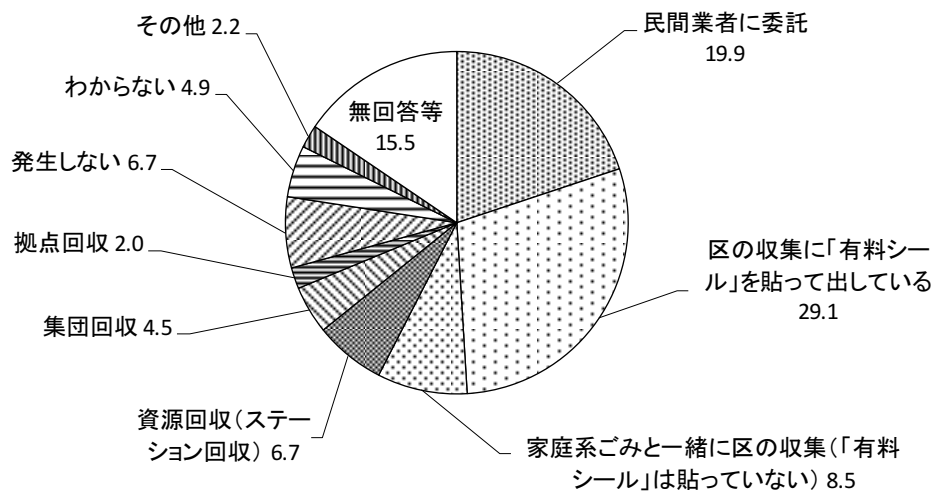
令和4年4月1日に施行されたプラスチック資源循環法について「全く知らない」が約4割を占めている。「内容も含め知っている」は8.5%である。



● プラスチック製容器包装以外のプラスチックの処理方法

プラスチック製容器包装以外のプラスチックの処理方法について質問したところ「区の収集に『有料シール』を貼って出している」が 29.1%と最も多い。次いで「民間業者に委託」が 19.9%と約2割を占める。

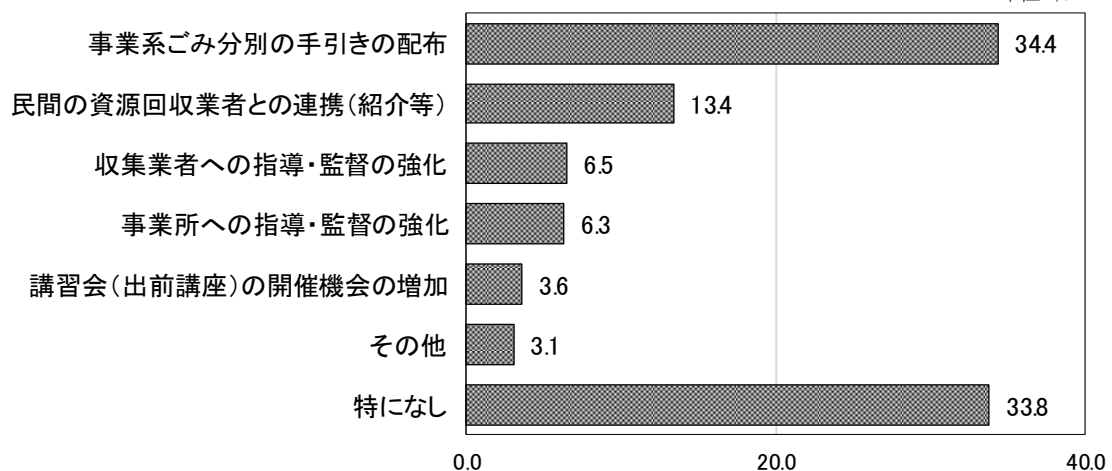
単位: %



● リサイクル・ごみ減量を推進するにあたり区に取り組んで欲しい施策

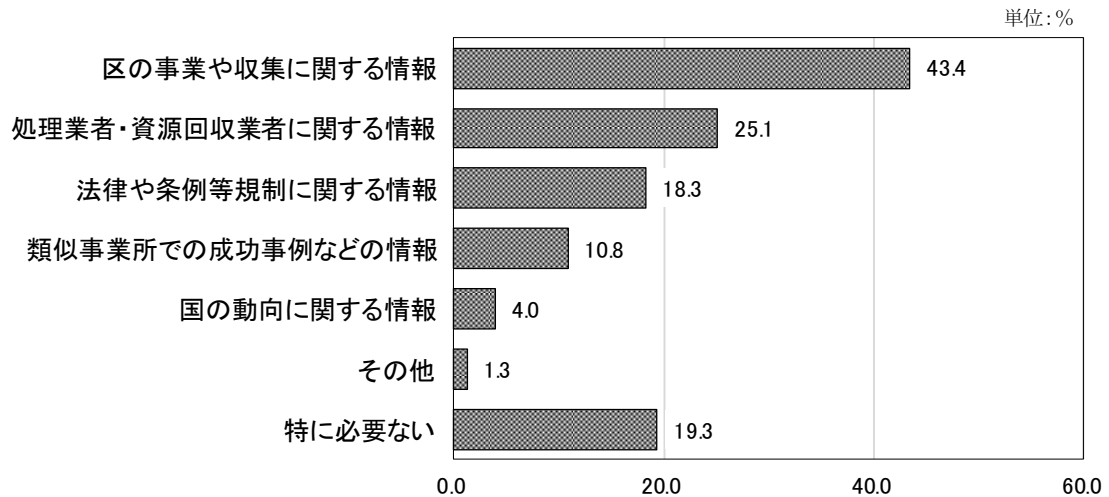
リサイクルを推進、ごみ減量するにあたり、区に取り組んで欲しい施策としては「事業系ごみ分別の手引きの配布」が 34.4%、次いで「特になし」が 33.8%である。

単位: %



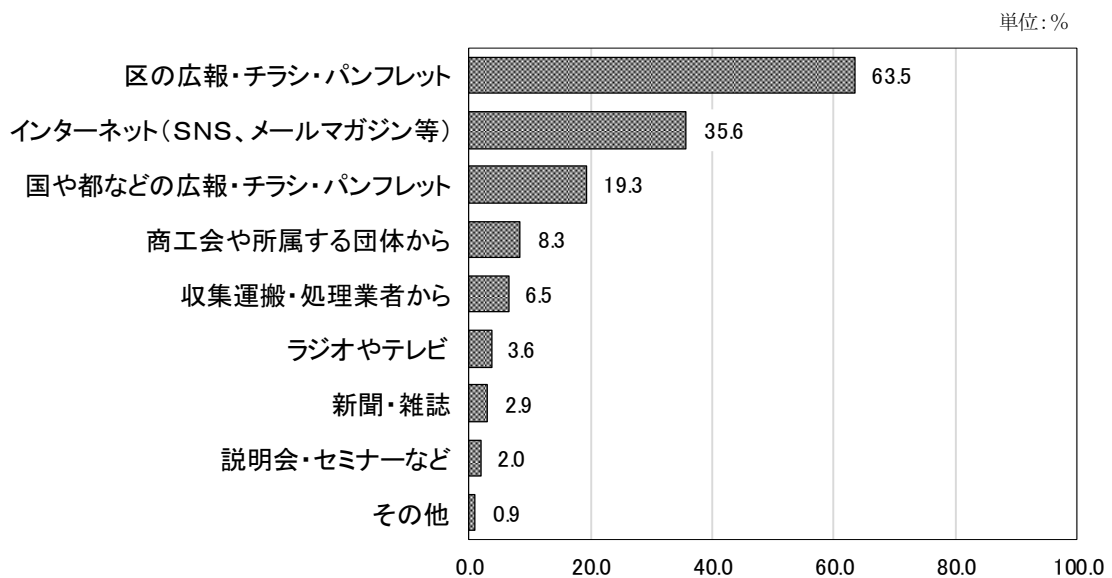
● リサイクル推進・ごみ減量のために必要な情報

リサイクル推進やごみ減量に必要な情報としては、「区の事業や収集に関する情報」が43.4%と最も多い。次いで「処理業者・資源回収業者に関する情報」が25.1%、「特に必要ない」が19.3%、「法律や条例等規制に関する情報」が18.3%である。



● 区からの情報はどのような方法が入手しやすいか

区からの情報はどのような方法が入手しやすいかを質問したところ、「区の広報・チラシ・パンフレット」が63.5%と最も多く、次いで「インターネット（SNS、メールマガジン等）」が35.6%となっている。



4 家庭ごみ排出原単位調査

(1) 調査目的

家庭から排出される家庭ごみの1人1日当たりの排出量(以下、「排出原単位」という)を把握することを目的とした。

(2) 調査方法

①一戸建て住宅調査

世帯人数と何日分のごみかを記入するラベルを配布しサンプルに貼り付けてもらい、調査員がサンプルの重量とラベルの記載内容を調査した。サンプルの重量を世帯人数と日数で除し排出原単位を算定した。

②単身世帯調査

単身者のみが居住するワンルームマンションから排出されたサンプルは1人世帯(若年層)と想定して区分した。世帯人数は1人、日数は前回回収があった日からの日数とした。サンプルの重量を世帯人数と日数で除し排出原単位を算定した。

③集合住宅調査

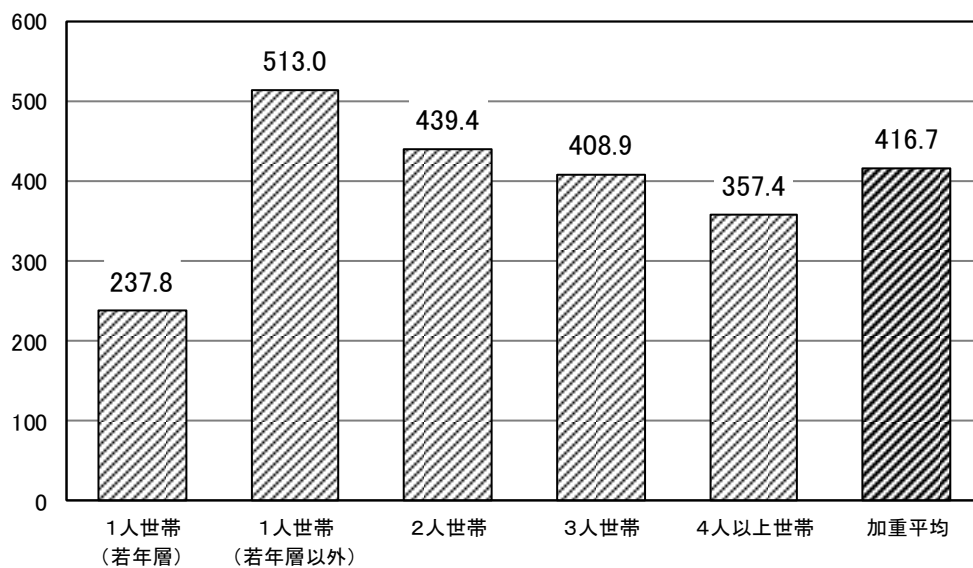
集積所に調査員を配置し、排出される際に世帯人数と何日分かを聞き取りした。サンプルの重量を世帯人数と日数で除し排出原単位を算定した。

(3) 分析方法

調査結果を家族人数別(1人世帯(若年層)、1人世帯(若年層以外)、2人世帯、3人世帯、4人以上世帯)に集計し、品川区の家族人数別の人口等を加味して加重平均することで平均的な排出原単位を推計した。

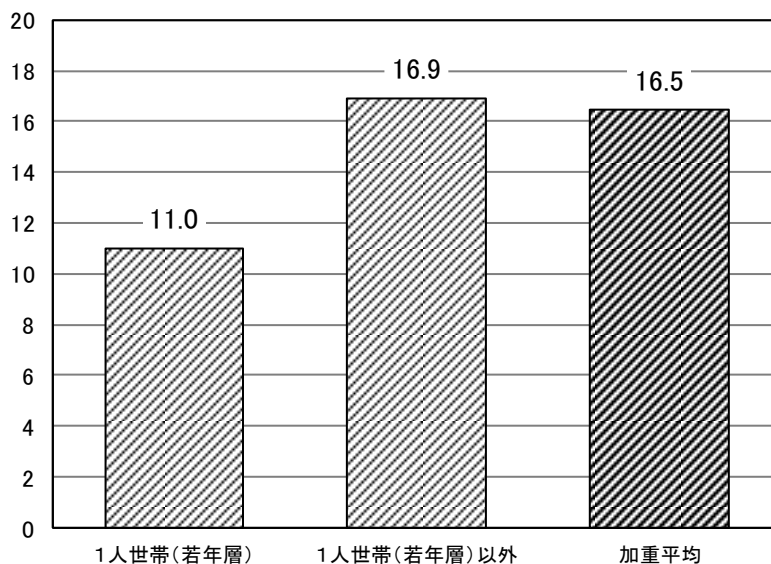
(4)燃やすごみの排出原単位

燃やすごみの排出原単位は、1人世帯(若年層)が 237.8g/人・日、1人世帯(若年層以外)が 513.0g/人・日、2人世帯が 439.4g/人・日、3人世帯が 408.9g/人・日、4人以上世帯が 357.4g/人・日である。世帯人数別の排出原単位を人口割合で加重平均した燃やすごみの排出原単位は 416.7g/人・日である。



(5) 陶器・ガラス・金属ごみの排出原単位

陶器・ガラス・金属ごみの排出原単位は、1人世帯(若年層)が11.0g/人・日、1人世帯(若年層)以外が16.9g/人・日である。世帯人数別の排出原単位を人口割合で加重平均した陶器・ガラス・金属ごみの排出原単位は16.5g/人・日である。



5 ごみ組成分析調査

(1) 調査目的

家庭ごみ及び収集事業系ごみが適正に分別されているか、あるいは、燃やすごみや陶器・ガラス・金属ごみの中にどのくらい資源物が含まれているか把握することを目的とした。

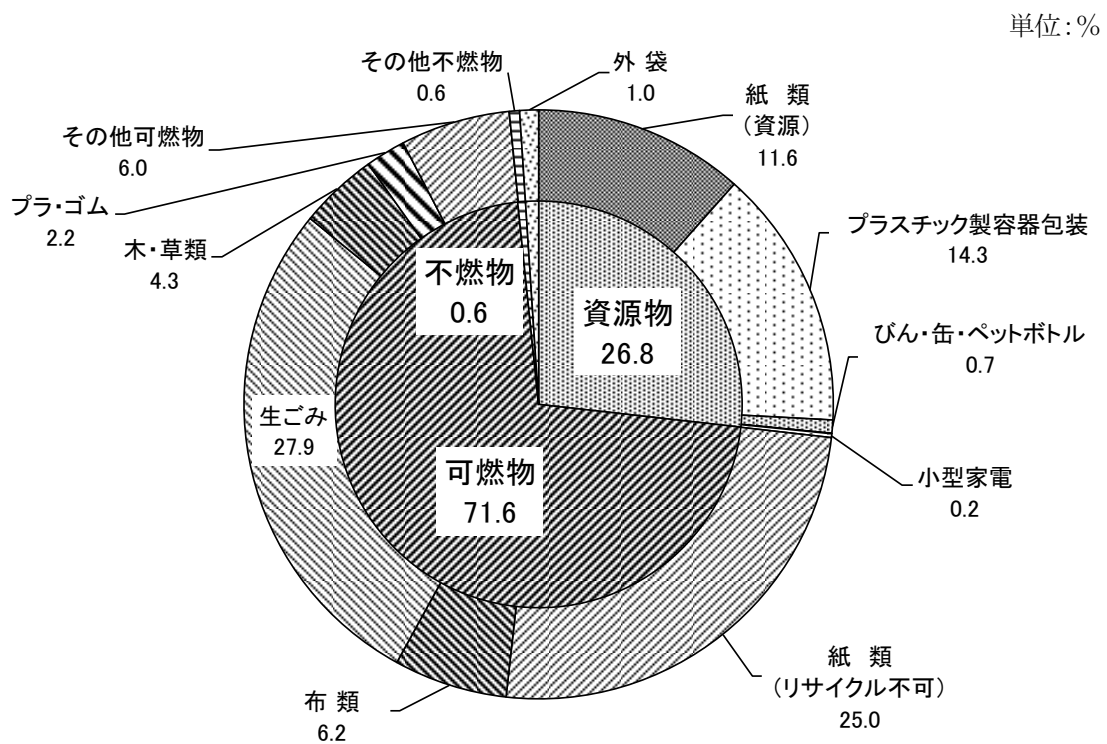
(2) サンプル量

家庭ごみは燃やすごみが1,800kg以上、陶器・ガラス・金属ごみは540kg以上、事業系ごみは燃やすごみが1,000kg以上、陶器・ガラス・金属ごみは250kg以上を調査した。

● 家庭ごみ燃やすごみの組成割合

可燃物が71.6%、資源物が26.8%、不燃物が0.6%、外袋が1.0%である。可燃物の内訳は、生ごみが27.9%、紙類が25.0%、布類が6.2%、その他可燃物が6.0%などである。

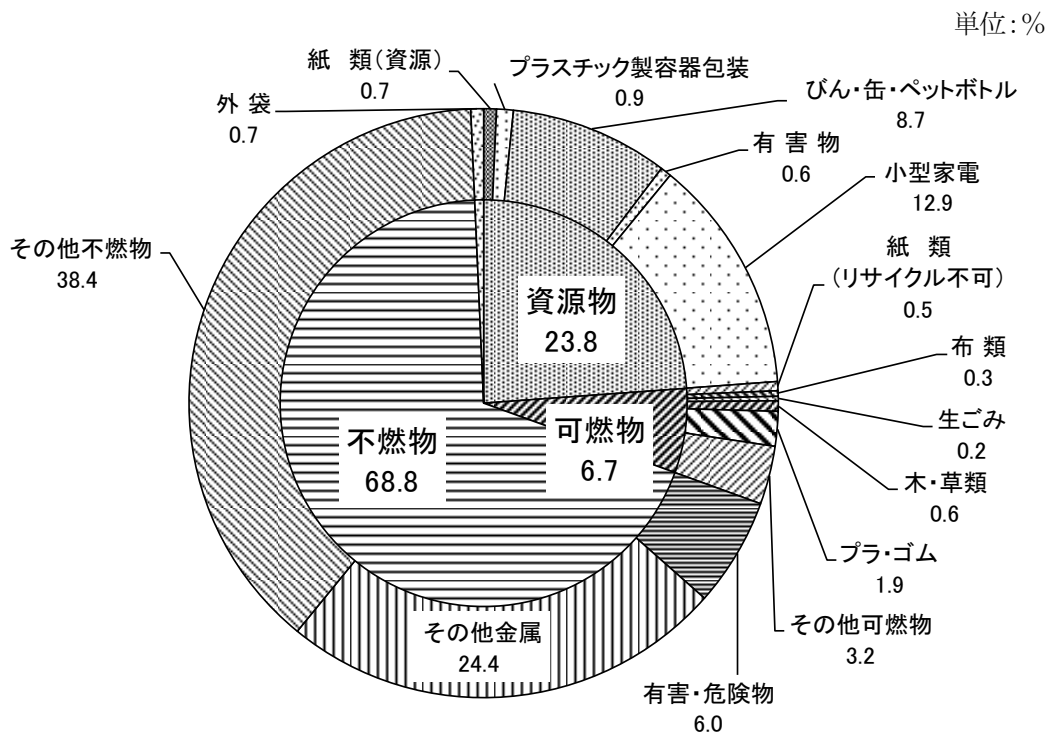
資源物は、26.8%、不燃物は0.6%で、合わせて27.4%が分別不適物である。資源物の内訳は、プラスチック製容器包装が14.3%、紙類が11.6%などである。不燃物の内訳は、その他不燃物が0.6%である。



● 家庭ごみ陶器・ガラス・金属ごみの組成割合

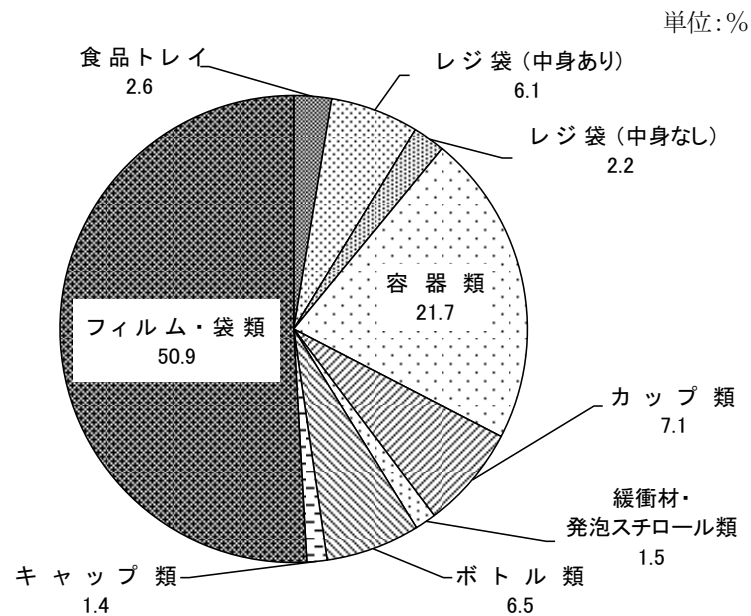
不燃物が68.8%、資源物が23.8%、可燃物が6.7%、外袋が0.7%である。不燃物の内訳は、その他不燃物が62.8%、有害・危険物が6.0%である。

資源物は、23.8%、可燃物は6.7%で、合わせて30.5%が分別不適物である。資源物の内訳は、小型家電が12.9%、びん・缶・ペットボトルが8.7%などである。可燃物の内訳は、その他可燃物が3.3%、プラ・ゴムが1.9%、木・草類が0.6%などである。



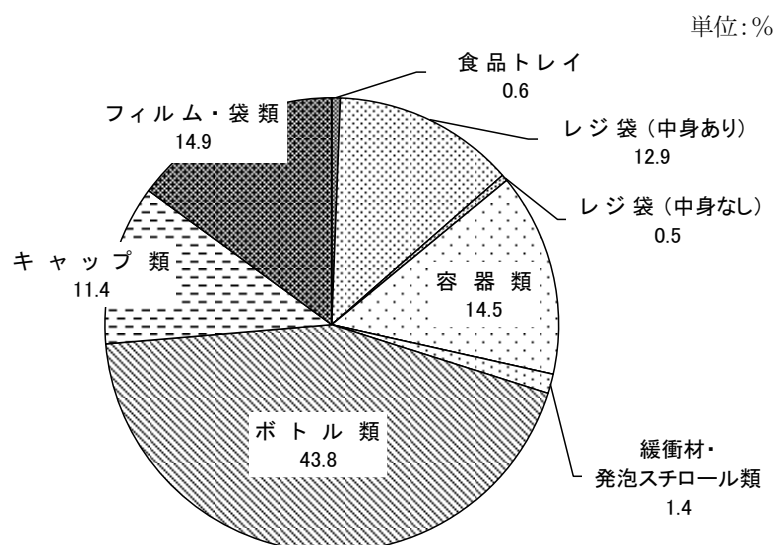
● 家庭ごみのプラスチック製容器包装の内訳(燃やすごみ)

燃やすごみのプラスチック製容器包装の内訳は、フィルム・袋類が 50.9%、容器類が 21.7%、カップ類が 7.1%などである。



● 家庭ごみのプラスチック製容器包装の内訳(陶器・ガラス・金属ごみ)

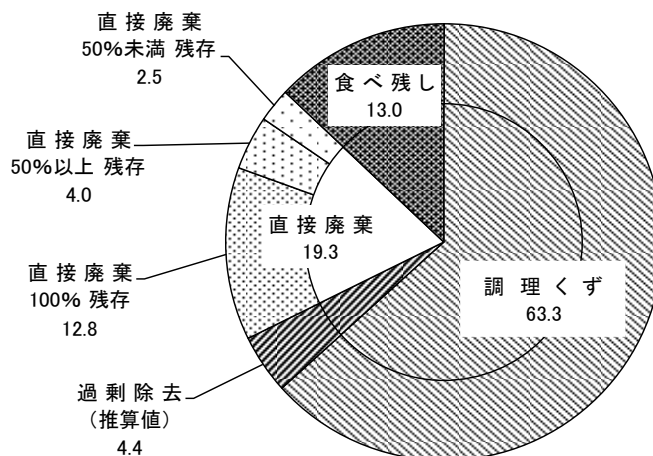
陶器・ガラス・金属ごみのプラスチック製容器包装の内訳は、ボトル類が 43.8%、フィルム・袋類が 14.9%、容器類が 14.5%などである。



● 家庭ごみの生ごみの内訳(燃やすごみ)

燃やすごみの生ごみの内訳は、調理くずが 63.3%、直接廃棄が 19.3%、食べ残しが 13.0%、過剰除去(推計値)が 4.4%である。直接廃棄 19.3%の内訳は、100%残存 12.8%、50%以上 4.0%、50%未満残存 2.5%である。過剰除去、直接廃棄、食べ残しを合計した食品ロスは生ごみ中の 36.7%であり、燃やすごみ全体の 10.2%である。

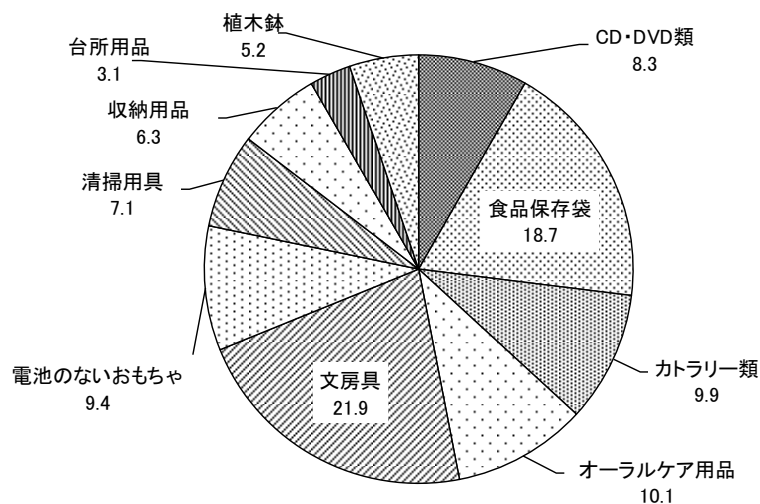
単位:%



● 家庭ごみの製品プラスチックの内訳(燃やすごみ)

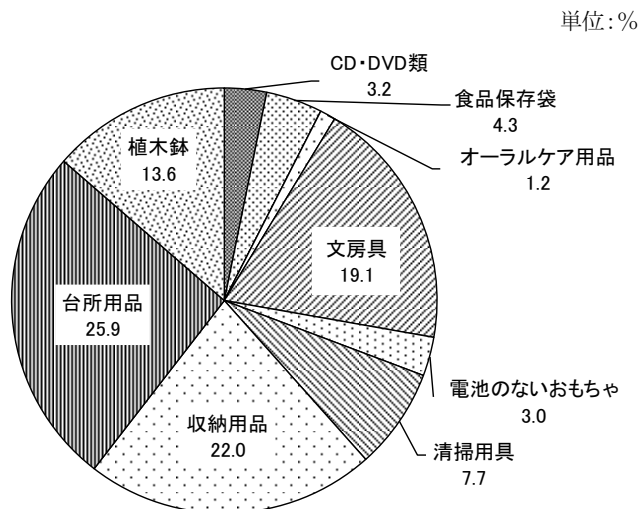
燃やすごみの製品プラスチックの内訳は、文房具が 21.9%、食品保存袋が 18.7%、オーラルケア用品が 10.1%などである。

単位:%



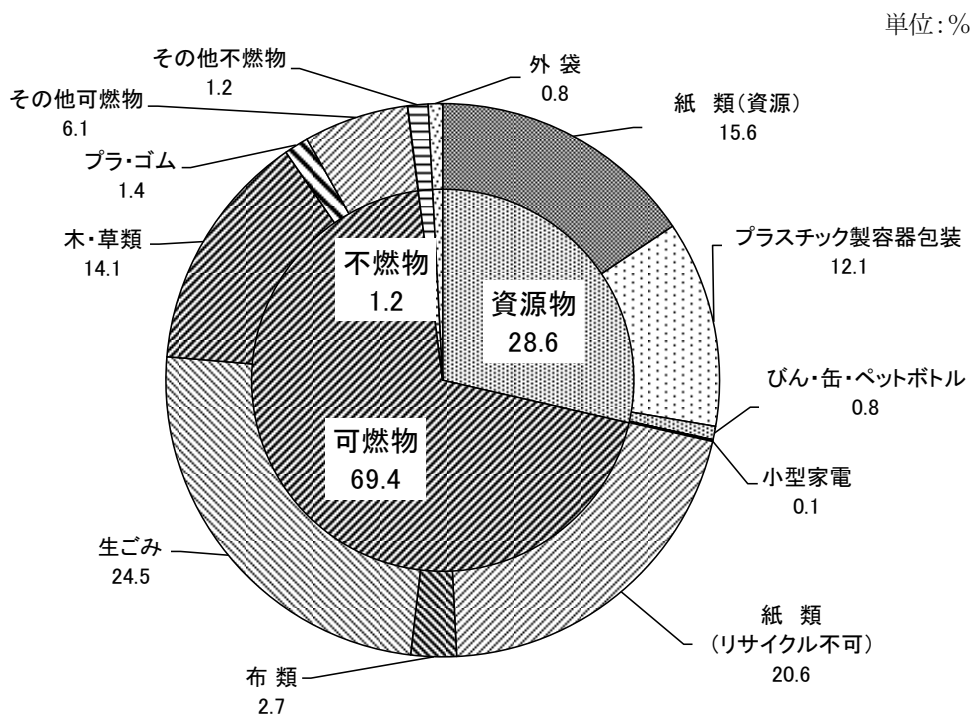
● 家庭ごみの製品プラスチックの内訳(陶器・ガラス・金属ごみ)

陶器・ガラス・金属ごみの製品プラスチックの内訳は、台所用品が 25.9%、収納用品が 22.0%、文房具が 19.1%などである。



● 事業系ごみ燃やすごみの組成割合

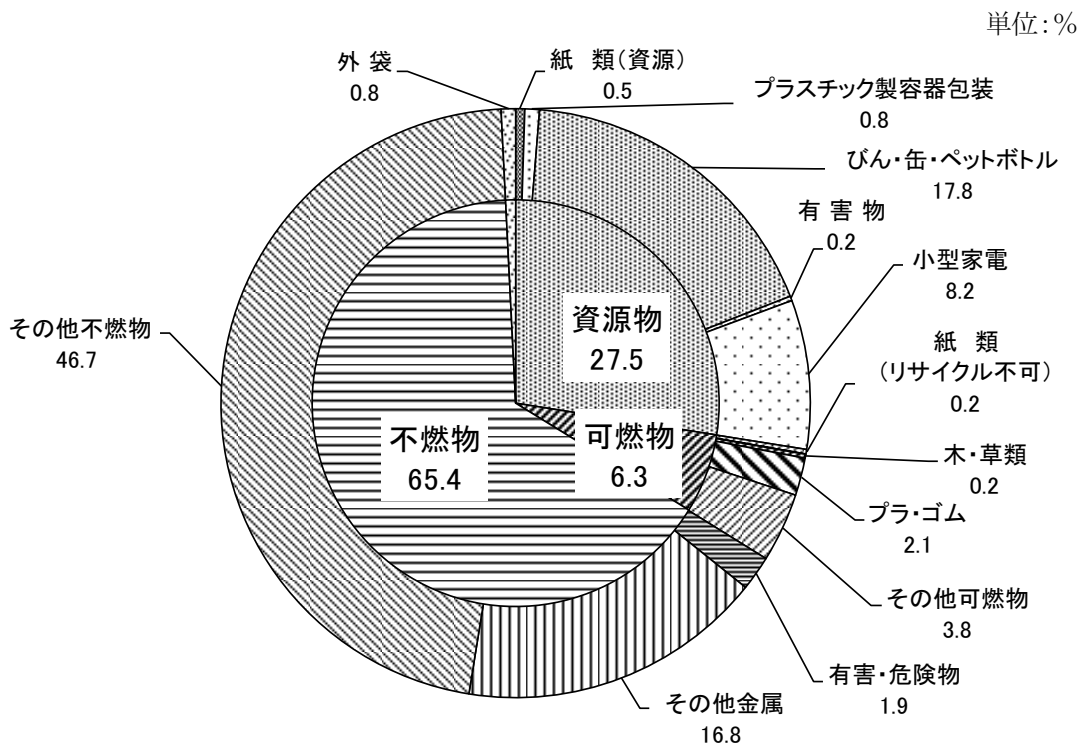
燃やすごみの組成は、可燃物が 69.4%、資源物が 28.6%、不燃物が 1.2%、外袋が 0.8%である。可燃物の内訳は、生ごみが 24.5%、紙類が 20.6%、木・草類が 14.1%、その他可燃物が 6.1%などである。資源物は、28.6%、不燃物は 1.2%で、合わせて 29.8%が分別不適用である。資源物の内訳は、紙類が 15.6%、プラスチック製容器包装が 12.1%などである。



● 事業系ごみ陶器・ガラス・金属ごみの組成割合

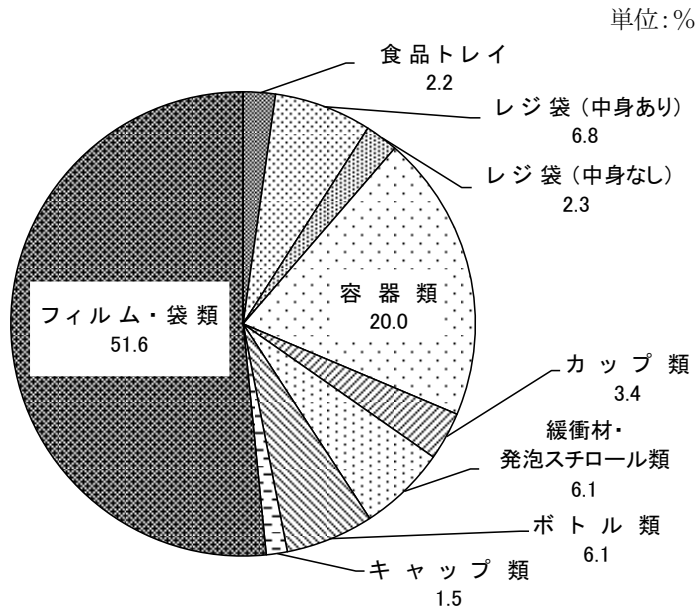
陶器・ガラス・金属ごみの組成は、不燃物が 65.4%、資源物が 27.5%、可燃物が 6.3%、外袋が 0.8%である。不燃物の内訳は、その他不燃物が 63.5%、有害・危険物が 1.9%である。

資源物は、27.5%、可燃物は 6.3%で、合わせて 33.8%が分別不適物である。資源物の内訳は、びん・缶・ペットボトルが 17.8%、小型家電が 8.2%、プラスチック製容器包装が 0.8%などである。可燃物の内訳は、その他可燃物が 3.8%、プラ・ゴムが 2.1%などである。



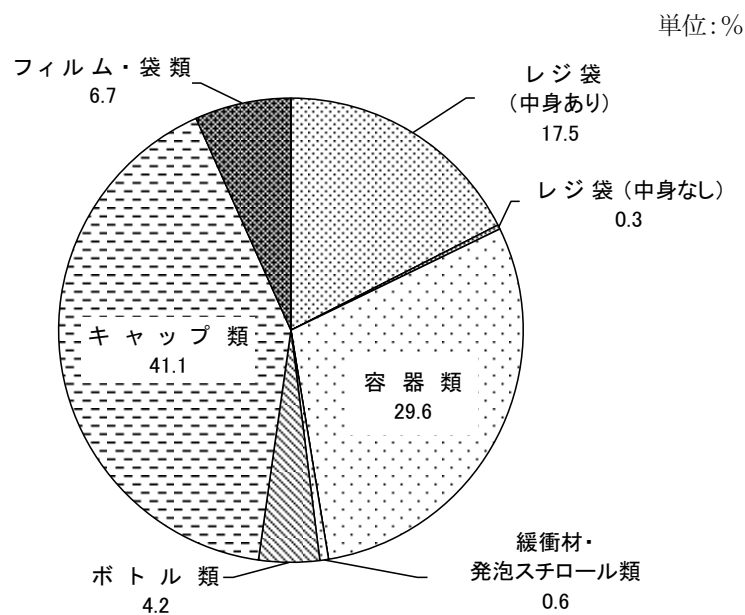
● 事業系ごみのプラスチック製容器包装の内訳(燃やすごみ)

燃やすごみのプラスチック製容器包装の内訳は、フィルム・袋類が 51.6%、容器類が 20.0%、レジ袋(中身あり)が 6.8%などである。



● 事業系ごみのプラスチック製容器包装の内訳(陶器・ガラス・金属ごみ)

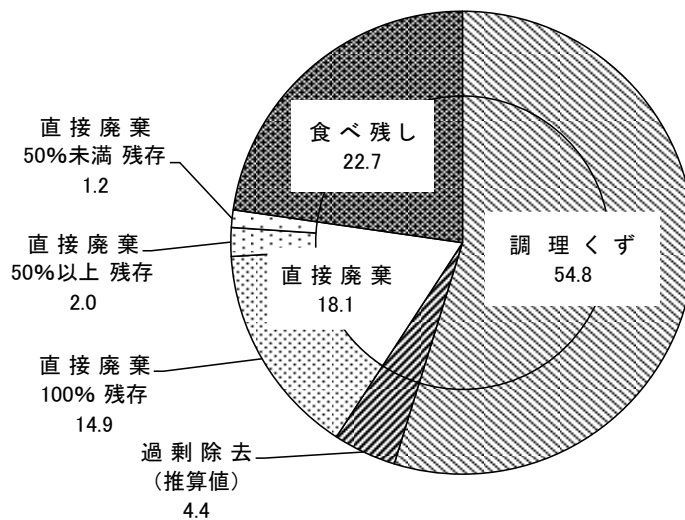
陶器・ガラス・金属ごみのプラスチック製容器包装の内訳は、キャップ類が 41.1%、容器類が 29.6%、レジ袋(中身あり)が 17.5%などである。



● 事業系ごみの生ごみの内訳(燃やすごみ)

燃やすごみの生ごみの内訳は、調理くずが 54.8%、直接廃棄が 18.1%、食べ残しが 22.7%、過剰除去(推計値)が 4.4%である。直接廃棄 18.1%の内訳は、100%残存が 14.9%、50%以上残存が 2.0%、50%未満残存が 1.2%である。過剰除去、直接廃棄、食べ残しを合計した食品ロスは生ごみ中の 45.2%であり、燃やすごみ全体の 11.1%である。

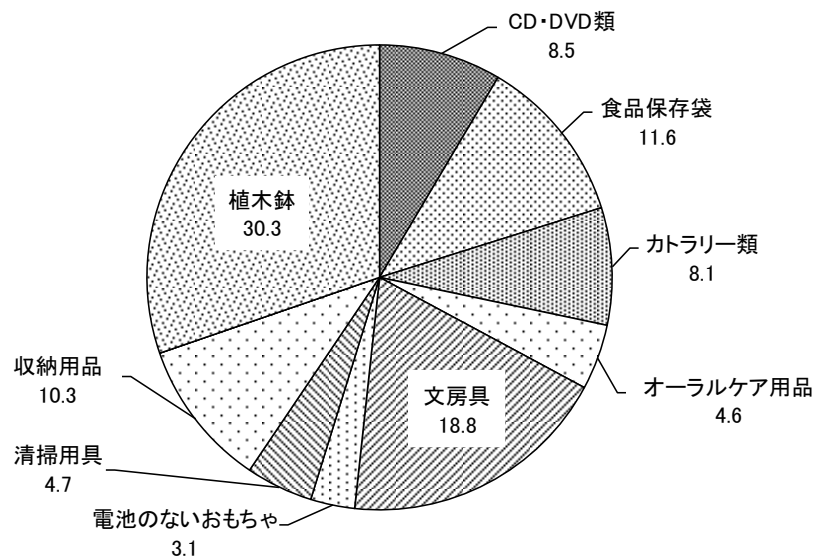
単位:%



● 事業系ごみの製品プラスチックの内訳(燃やすごみ)

燃やすごみの製品プラスチックの内訳は、植木鉢が 30.3%、文房具が 18.8%、食品保存袋が 11.6%などである。

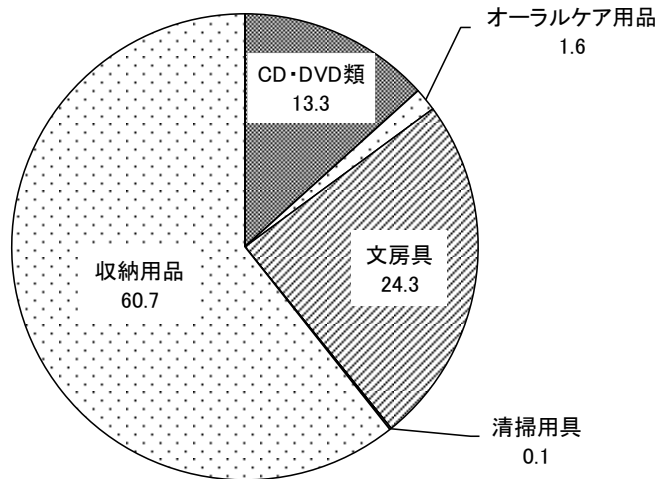
単位:%



● **事業系ごみの製品プラスチックの内訳(陶器・ガラス・金属ごみ)**

陶器・ガラス・金属ごみの製品プラスチックの内訳は、収納用品が 60.7%、文房具が 24.3%、CD・DVD 類が 13.3%などである。

単位:%

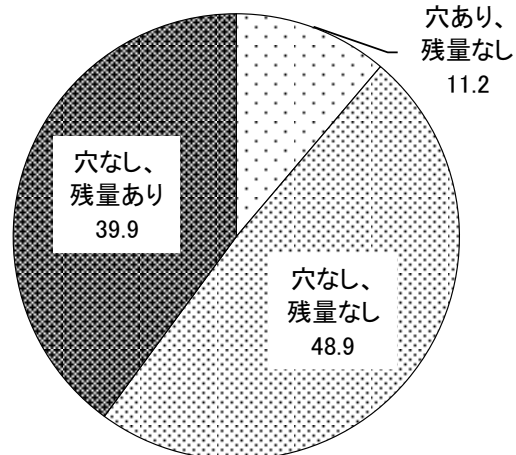


● **スプレー缶等分析**

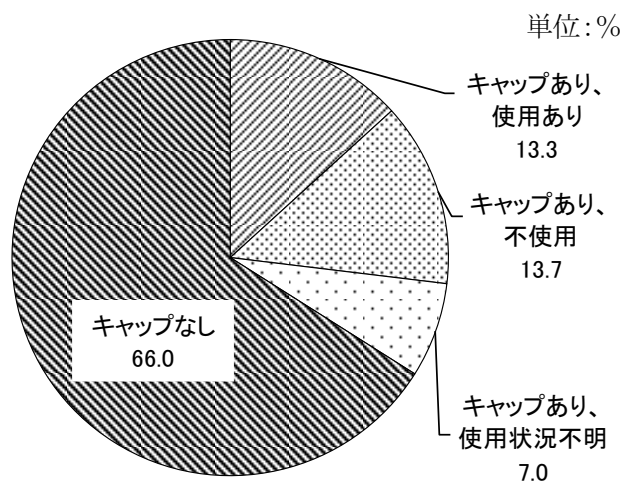
調査した 507 本のうち、エアゾール缶は 423 本、コンロ用カセットボンベは 60 本である。噴射剤として窒素ガスや炭酸ガスなどの不燃性ガスを使用している 24 本を除いた 483 本について詳細調査、集計した。

エアゾール缶、コンロ用カセットボンベの穴の有無、残量の状況

単位:%



エアゾール缶、コンロ用カセットボンベのガス抜きキャップの状況



● 小型家電詳細調査

家庭ごみ、事業系ごみの燃やすごみ及び陶器・ガラス・金属ごみから出た小型家電の重量ベースの割合は、区で拠点回収の対象とする品目が 28.2%、それ以外の品目が 54.8%である。

区 分	重 量 (kg)	割 合 (%)	個 数 (個)	割 合 (%)
品川区で拠点回収の 対象とする品目 (10×25cm以内)	36.66	28.2	375	59.8
それ以外の品目	71.23	54.8	146	23.3
上記に記載のないもの	22.08	17.0	104	16.9
合 計	129.97	100.0	625	100.0

● 排出容器調査

重量ベースの割合は次のとおりである。

排出容器の種類		家庭系		事業系	
		燃やすごみ	陶ガ金ごみ	燃やすごみ	陶ガ金ごみ
容量表示のある袋	30リットル	1.4	0.3	0.3	0.0
	45リットル	6.8	3.2	12.7	4.0
	70リットル	7.6	0.3	1.9	0.0
	90リットル	0.7	0.0	0.0	0.0
	小計	16.5	3.8	14.9	4.0
レジ袋		11.9	38.7	0.0	4.3
透明・半透明袋		70.2	29.2	74.4	88.1
紙袋		0.6	4.5	0.9	1.1
段ボール		0.6	8.4	2.7	0.0
その他		0.2	15.4	7.1	2.5
合計		100.0	100.0	100.0	100.0

単位：%

6 事業系有料ごみ処理券貼付状況分析調査

(1) 調査目的

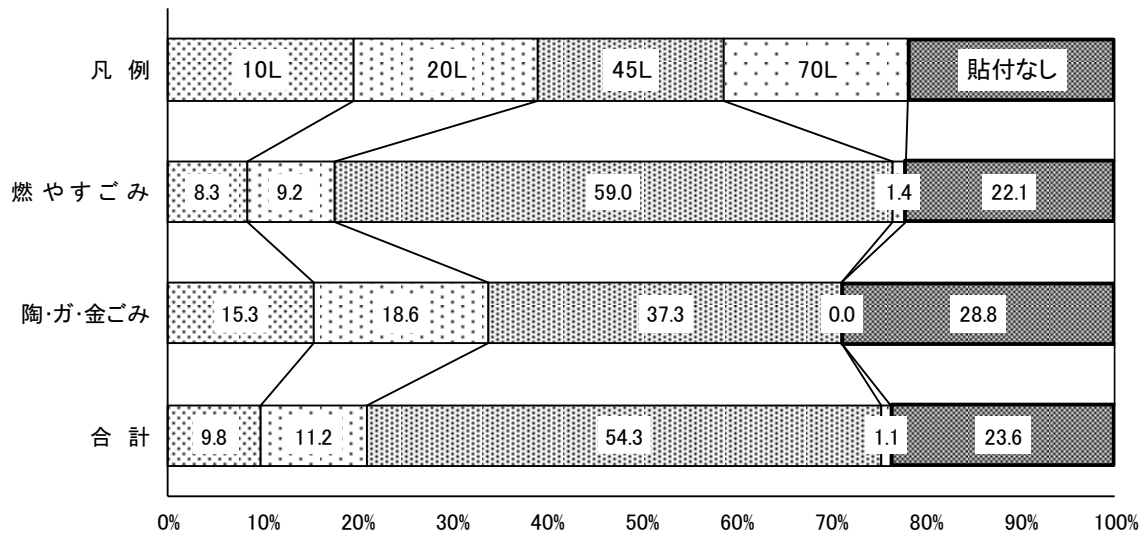
区収集事業系ごみについては、事業系有料ごみ処理券の未貼付あるいは料金不足のものが排出され、区の財政収入に影響していることが懸念される。事業系ごみ処理手数料の適正徴収は、家庭ごみ有料化の検討の前提条件にもなるため、事業系有料ごみ処理券の貼付率等を把握することを目的とした。

(2) 調査方法

事業系ごみの組成調査試料を調査の対象とし、ごみ処理券の貼付の有無、袋容量、処理券容量などを記録し、貼付率等を算定した。

● 事業系有料ごみ処理券貼付状況分析調査結果

事業系ごみとして排出された149袋について事業系有料ごみ処理券貼付率を求めるための調査対象とした。その結果、有料ごみ処理券が貼付されているものが76.4%、貼付されていないものが23.6%あった。



7 考察

● 家庭ごみ(区民)アンケート調査

満足度をたずねた設問では「ごみ回収の回数」、「分別区分」、「街の清潔さ」において「満足している」、「どちらかといえば満足している」の合計は9割前後であり、高い割合で満足を得ている。「情報公開・提供」、「3Rの取り組み」に関しては、前者に比較すると低く、改善の余地があるものの半数以上の満足を得ている。

ごみ収集で困っていることは、「特に不便や不都合がない」が45.5%で最も高いが、「ごみ出しのマナーが悪い人がいる」、「カラスや猫の被害がある」などで困っているという意見も多い。

資源回収品目を増やすことによる費用増加については、半数以上が「知らなかった」と回答しており認知度は高いとは言えない。また、費用の増加の賛否については意見が分かれている。情報公開・提供を充実させ更なる満足度の向上、ごみ政策への理解度向上に努める必要がある。

● 事業所ごみアンケート調査

約7割の事業所では資源やごみの保管場所があり、4割以上の事業所は「民間業者の回収、ごみの処理を委託している」となっている。業者選択の理由としては「信頼できる業者だから」、「環境に配慮してくれるから」などが挙げられている。民間処理業者に委託していない理由は「発生量が少なく業者に委託するほどではないから」が多い。民間の許可業者委託への移行の考えは、約8割は「委託するつもりはない」と回答している。

リサイクルやごみ減量の取り組みについては、8割弱が「資源の分別ボックスを設置している」。さらなるリサイクルやごみ減量の可能性は「できると思う」が32.5%である。取り組みでできると思われることは、「電子化などの紙類の削減」が7割以上である。リサイクルやごみ減量を進めるうえでの課題は、「機密書類が多い」が最も多い。個人情報や機密情報を含む書類などの処分は課題である。

「品川区リサイクル事業協同組合カムズ」については、「何とも言えない」が半数。「利用したいと思わない」と合わせると8割近い。十分に認知されていないとの結果となった。

「プラスチック資源循環法」は、「内容も含め知っている」が8.5%であり、十分に認知されているとは言えない結果となった。情報公開・提供、PRが重要である。

● 家庭ごみ排出原単位調査

人口構成を加味した加重平均は416.7g/人・日であり、前回の405.0g/人・日と比較すると11.7g/人・日でやや増加している。当時と比べて新型コロナウイルス感染予防の関係で外出の抑制や、リモートワークなど、様々な生活様式や行動の変化があったことも増減の要因の一つと考えられる。ディスプレイを設置した集合住宅の結果は228g/人・日であり、ごみ排出量削減効果が確認できた。

● ごみ組成分析調査

● 家庭ごみ燃やすごみの組成割合

27.4%の資源物や不燃物などの分別不適合物が混入。混入していた資源ごみで多いものは、「その他プラスチック製容器包装」や、「紙製容器包装」など。「折込広告」、「雑誌・本」、「段ボール」なども比較的多い。リサイクルできるプラスチック類や紙類についての見分け方や、基準などをわかりやすくPRし、より一層の周知徹底と普及啓発が必要である。

プラスチック製容器包装の内訳を見ると、「フィルム・袋類」が最も多い。食品ロスは生ごみの約4割である。製品プラスチックでは「文房具」、「食品保存袋」の割合が比較的高い。

●家庭ごみ陶器・ガラス・金属ごみの組成割合

30.5%の資源物や可燃物などの分別不適合物が混入していた。資源物で最も多いものは「小型家電」、「飲料用びん」、「スチール缶」なども比較的多い。混入していた可燃物は「その他の製品プラスチック」、「製品プラスチック」、「ゴム・皮革類」、「木・草類」など。プラスチック製容器包装では、「ボトル類」が最も多く、4割以上である。製品プラスチックでは、「台所用品」、「収納用品」などの割合が比較的高い。

●事業系ごみ燃やすごみの組成割合

29.8%の資源物や不燃物などの分別不適合物が混入。混入していた資源物で多いものは、「容器包装紙類(リサイクル可)」、「その他紙類(リサイクル可)」など。「その他プラスチック製容器包装」も比較的多い。「その他プラスチック製容器包装」では「フィルム・袋類」、「容器類」などが特に多い。「不燃物」も1.2%混入していた。各業種の特徴に応じたきめ細かい分別の周知徹底と指導が必要である。

●事業系ごみ陶器・ガラス・金属ごみの組成割合

33.8%の資源物や可燃物などの分別不適合物が混入。混入していた資源物で多いものは、「飲用・食用スチール缶」、「飲食用びん」、「小型家電」などである。混入していた可燃物は「その他の製品プラスチック」が多い。「飲用・食用スチール缶」などは比較的容易に回収することが可能と考えられるため、より一層の分別の周知徹底と指導が必要である。

●スプレー缶等分析

全体の39.9%は穴がなく、かつ残量があった。これらは発火、爆発などの重大事故の原因となりうる危険なものである。不適切な排出方法による危険性を訴え、正しい排出方法のより一層の周知徹底と普及啓発が必要である。

●小型家電詳細調査

「付属品(ACアダプター、延長コード)」、「携帯電話(スマホ・PHS含む)」が多い。少数で多品目に及ぶことが特徴。回収品目を増やすこととともに、少数で多岐にわたる品目を効率よく回収し、有効に処理できる仕組みを検討する必要がある。鉄や、銅、アルミなどの金属や、レアメタルや貴金属などの貴重な資源も含まれていることもなどもPRして一層、資源としての回収率向上につなげる必要がある。

●排出容器調査

透明・半透明ではないレジ袋や、紙袋、段ボール箱などの中身が見えにくい袋での排出が確認された。回収時の安全の面からも、正しい排出容器を使うよう、より一層の周知徹底と指導が必要である。

● 事業系有料ごみ処理券貼付状況分析調査

燃やすごみでは 22.1%、陶器・ガラス・金属ごみでは 28.8%が有料ごみ処理券が貼られていないことが分かった。これらは明らかなルール違反であるので適切に対処する必要がある。

「品川区一般廃棄物排出実態調査等業務委託」
業 務 報 告 書

令和4年9月 発行

発行：品川区清掃事務所

〒141-0032

品川区大崎1-14-1

電話 03-3490-7705